

広島県知事
藤田雄山 殿

「鞆の浦」の埋立て架橋計画を中止し、
歴史的・文化的資源を守ることを求めるアピール

瀬戸内海の美しい大景観の中にあつて、古来より国の内外の船が立ち寄る鞆の港と街は、数々の歴史を彩る舞台となった。今もその姿は海と山と街が一体となった貴重な景観として、内外の人々の関心を集めている。

我々は、この鞆において2008年5月24日から25日の2日間、「福山・鞆の浦」の景観を考えるセミナーを開催した。そこで鞆の海に橋を架け、一部を埋立てる計画が進もうとしている経緯について知り、看過できない状況にあると判断した。一次的経済性や利便性のみで景観が壊されてきた幾多の教訓から、今はこれを守り育て、将来に受け継いでいくことこそが、住む人たちの誇りと地域や街の価値を高めることに繋がる、とするのが世界の共通認識となっている。我々も議論を通じてこのことを強く確信すると共に、埋立て架橋中止を求める鞆地区の人々や、それを支援する人々に賛同するものである。

そこで、ここに集まり、かけがえのない資源を守り最大限に活かす街づくりを求める認識を共有した我々は、つぎのことを強く訴えるものである。

- (1) 広島県・福山市が埋立て架橋計画を速やかに中止すること
- (2) 景観破壊を最小限とする交通施策への転換を図ること
- (3) 地域固有の防災や生活環境の向上と産業の育成を図ること

2008年5月25日

都市環境デザイン会議「福山・鞆の浦」の景観を考えるセミナー参加者一同
都市環境デザイン会議関西ブロック有志
都市環境デザイン会議中国ブロック有志